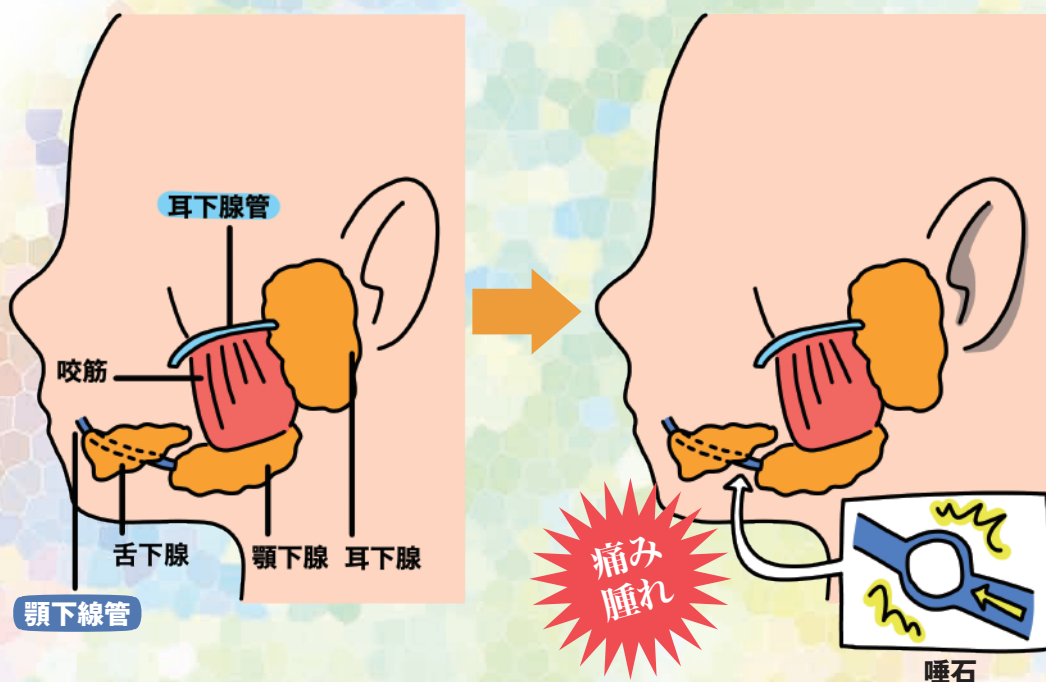


サポエリだより

▶ 唾液腺とは…

唾液腺は唾液(つば)がつくられる場所で、大唾液腺と小唾液腺に分かれています。大唾液腺は耳下腺、顎下腺、舌下腺からなります。唾液腺や唾液の通り道である導管にカルシウムやリンが固まってできた唾石(結石)ができることで腫れや痛みが生じることがあります。



唾液腺内視鏡手術って何？

唾液腺内視鏡手術とは…

唾液腺の導管の中に細い内視鏡を入れ、内部を直接確認しながら治療を行う手術です。主に、唾液の通り道にできた石(唾石症)である唾石を取り除いたり、狭くなった部分を広げたりする際に用いられます。体への負担が少なく、傷が目立ちにくい治療法として近年注目されており、唾液腺内視鏡手術には、専用の機器と専門的な技術が必要です。そのため、2026年時点では、関西圏でこの治療を行っている医療機関はまだ多くありません。

『唾石』という疾患をご存じでしょうか？主に顎下腺から口腔への唾液の通り道にできる石のことなんです。唾液の通り道が塞がれることで炎症が起こり頸部の痛みや腫脹を生じます。当科では、この唾石症に対する低侵襲治療として、関西では施行できる施設が限られている唾液腺内視鏡手術を導入しました。頸に傷を残さず、身体への負担を抑えながら治療できる最先端の手術治療になります。お困りの方は、かかりつけ医を通じてお気軽にご相談ください。



耳鼻咽喉科・頭頸部外科

医長

寺田 哲也

木下 一太

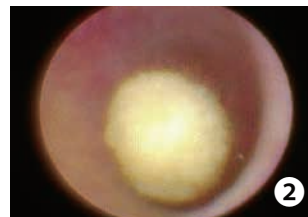
唾液腺内視鏡手術の特徴

唾液腺内視鏡手術では、口の中にある唾液の出口から、直径1～2mmほどの細い内視鏡(写真1)を入れ、モニター(写真2)を見ながら専用の器具で唾石を取り除きます(写真3)。唾石の大きさ、場所、数によっては、内視鏡だけで治療できる場合もあります。

▶この治療には、以下のような利点があります。

- 首の皮膚を切らずに治療できる場合がある
- 術後の痛みや腫れが比較的少ない
- 傷あとが目立ちにくい

「できるだけ体への負担が少ない治療を受けたい」と
お考えの患者さんにとって、
有用な治療選択肢の一つです。



唾液腺内視鏡と他手術の比較

顎下腺摘出	頸部の皮膚切開が必要です。 確実性がありますが顔面神経下顎縁枝、舌神経、舌下神経など神経麻痺のリスクがあります。
口内法	口腔底粘膜の切開が必要ですが、比較的大きな唾石でも摘出可能です。 口の中から触れる唾石が対象です。
内視鏡手術	唾液腺の導管の出口から内視鏡を挿入する傷がほとんどない手術です。 大きい唾石は内視鏡では摘出困難ですが、深部の唾石にも対応できます。

ぜひご相談ください!!

受診希望される際には紹介状が必要となります。寺田医師の初診にて唾液腺内視鏡の適応を判断し、木下医師の専門外来にてCT画像や診察所見をもとに、最終的な治療方針を患者さんにご提案します。

初診	水	寺田	適応判断
再診	水or土	木下	最終判断/治療計画

患者サポートエリアでは様々な職種が連携して患者さんの対応にあたっています。



看護師
◆入院前の面談 ◆治療や入院生活に関わる相談
歯科衛生士
◆入院前に歯科処置が必要でないかなどの口腔チェック

薬剤師
◆服用されているお薬の確認 ◆お薬の休薬確認
医療ソーシャルワーカー
◆退院後の生活や環境などに関する相談

栄養士
◆栄養状態の確認 ◆退院後の食事についての相談など
事務スタッフ
◆入院前の手続き ◆療養生活に関わる様々な相談 ◆かかりつけ医の相談など

患者サポートエリアは病院本館1階にあります。ぜひご利用ください。